

科目名		生涯学習論特殊講義Ⅰ（生涯学習の理論と課題）	
担当教員	永井健夫	科目区分	選択必修科目
開講区分	前期	単位数	2単位
曜日時限	火曜・1時限	開講年次	1年
到達目標	生涯学習の考え方とその具体的課題について理解・関心を深めること。		
授業概要	<p>試行錯誤を繰り返して解決策を見つけていく過程も、教科書の記述を読んで理論や因果関係などについて理解する過程も、あるいは新しい事業の計画や手順を構成してゆく過程も、いずれも「学習」と見なすことができる。素朴に成り立つ学習もあれば、高度な精神機能によって成り立つ学習もあるし、非意図的あるいは偶発的な学習もある。この学習と人間の生活や社会的・文化的活動とは互いに切り離せない関係にあり、太古の昔からいずれの年齢段階の人も常に学習し続けてきた。にもかかわらず、わざわざ「生涯」が付されて成り立っているのが「生涯学習」であるが、この言葉が成立した背景には、現代的な状況や困難に対する人類的な危機感がある。つまり、生涯学習とは、学習機会の生涯的拡大を意味する用語であるだけでなく、今日の社会的・文化的問題に対する課題意識や批判的アプローチへの関心を象徴する言葉でもある。この講義では、こうした「生涯学習」という言葉に内包される意味や問題意識の多様性について、テキストの読解と意見交換をとおして検討してゆく。（下記の授業内容・方法は、履修者の数や関心に応じて変更する場合がある。）</p>		
授業計画			
回数	内容		
第1回	講義の概要説明とテキストの紹介		
第2回	履修者の問題関心の確認と意見交換		
第3回	「生涯学習の理念」①（古典的生涯学習論～OECDとリカレント教育）		
第4回	「生涯学習の理念」②（発展途上国からの生涯教育論と脱学校論～学校型知をこえること）		
第5回	「成人の特性を活かした学習援助論と生涯学習方法論」①（成人の特性を活かした学習援助～小集団ディスカッション）		
第6回	「成人の特性を活かした学習援助論と生涯学習方法論」②（ノールズのアンドロゴジー論～成人の自己概念）		
第7回	「生涯学習内容論と現代社会論」①（学習プログラムと学習カリキュラム～学習プログラム開発の新しい流れ）		
第8回	「生涯学習内容論と現代社会論」②（学習内容論～現代社会の 이슈を学習につなげること）		
第9回	「生涯学習のリーダーと指導者」①（集団・組織におけるリーダーの問題～目標達成と集団維持の機能論）		
第10回	「生涯学習のリーダーと指導者」②（状況呼応型理論～望ましい生涯学習リーダーの条件）		
第11回	「生涯学習の評価」①（生涯学習における評価の問題～学校教育における評価論）		
第12回	「生涯学習の評価」②（生涯学習における評価の特徴～生涯学習独自の評価のあり方）		
第13回	「生涯学習の場」		
第14回	履修者の問題関心に基づく研究報告と意見交換①		
第15回	履修者の問題関心に基づく研究報告と意見交換②		
準備学習等 （課題・予習・復習・調査等）	授業はテキストの読解とそれに基づく意見交換が中心となるので、授業で予定されている部分を事前に読み、そのなかの不明な用語について調べ、関心事項を整理しておくこと。		
評価方法・基準 ・講評の方法	事前準備の状況と意見交換における積極性(40%)、研究報告の達成度(30%)、まとめのレポートの達成度(30%)をもとに評価する。講評は、適宜、面談またはEメールにより行なう。		
テキスト・参考書	堀薫夫『生涯発達と生涯学習 [第2版]』ミネルヴァ書房、2018年。（税別2,800円）		
前年度の授業を ふまえた今年度 の授業方針	従来どおり、履修者の問題関心を最大限に尊重することに努める。		
学生への メッセージ	「生涯学習」は必ずしも自分の修論テーマと直結しないと思えるかもしれませんが、間接的ながらも関係する論点はあるはずですので、それを探り当てて、自らの研究・考察に活かしていただけると願います。		
授業に参考と なるサイト			

関連する画像	
その他・備考	